

論文審査の結果の要旨

| | | | |
|--|-------------------------------------|----|-----------------------------|
| 報告番号 | 博(医歯薬)甲第 465 号 | 氏名 | Mostafa Mohamed Ahmed Ahmed |
| 学位審査委員 | 主 査 田中 正一 副 査 尾野村 治 副 査 甲斐 雅亮 | | |
| 論文審査の結果の要旨 | | | |
| <p>1 研究目的の評価</p> <p>本研究は、分子認識機能をもつ宿主化合物としてキューカービチュリル(CB[n])誘導体の効率的合成・単離法の開発とそのバイオインスパイアード分子への結合挙動を調べようとしたものであり、目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価</p> <p>キューカービチュリル(CB[7])を高純度で精製するために逆相クロマトグラフ法を用いた容易な単離法を開発した。さらに、新規なメチル化したキューカービチュリル(MeCB[6])を設計し、その合成法を開発した。単離した CB[7]並びに MeCB[6]と各種のバイオインスパイアード分子、例えば、アミノ酸、脂肪酸、ペプチド、アセチルコリン等との結合挙動を競合的蛍光滴定法により調べ、CBの宿主分子としての分子認識能を調べた。これらの研究手法は、独自で新規なものであり妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価</p> <p>上記の手法で研究を行った結果、キューカービチュリル誘導体の効率的合成・単離法を開発し、その宿主分子としての機能を明らかにしており、これらの研究結果、解析・考察は高く評価できる。</p> <p>以上のように本論文は薬学研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士(薬学)の学位に値するものと判断した。</p> | | | |